

【解答例】

I

- 1 天然痘。藤原広嗣。
- 2 律令体制の整備に伴い公地公民制が確立されたが、人口増加による口分田の不足を補い税の増収をはかるため、朝廷は三世一身法を發布して田地の開墾を奨励した。しかし、本人一代か三世代までで収公される墾田の開墾は進まず、天然痘の流行で田地が荒廃したため、墾田永年私財法を發布して田地の永年私有を認めた。その結果、貴族や寺社が国司・郡司の協力のもとで積極的な開墾を行うようになり初期荘園が成立した。
- 3 鴨長明。養和の飢饉。
- 4 飢饉によって、不作となった荘園・公領の農村から年貢・公事などの形でもたらされる物資やそれを運ぶ人々が京都に来なくなった。
- 5 寛喜の飢饉で食糧不足が深刻化すると、荘園を離れる流民が増加したほか、承久の乱後に勢力を拡大していた地頭が各地で荘園領主との争いをいっそう激化させた。この事態に対して北条泰時は、裁判の公平な基準を定めるため、武士社会の法典である御成敗式目を制定した。

(総字数 400 字)

II

- 1 日露和親条約が結ばれたが、樺太は従来通り国境を定めず日露両国人の雑居地とした。
- 2 榎本武揚。
- 3 大津事件。これは訪日中のロシア皇太子、のちのロシア皇帝ニコライ 2 世が滋賀県大津で警備巡査の津田三蔵に切りつけられた事件であり、その直前には、ロシアがシベリア鉄道を計画したことで、同様に東アジアでの勢力拡大をねらっていたイギリスがロシアへの警戒から日本の条約改正交渉に好意的になっていた。しかし政府はこの事件によるロシアの反発を恐れ、外相青木周蔵は辞任し、条約改正交渉は一時頓挫することとなった。
- 4 日清戦争の勝利による下関条約で日本は遼東半島の割譲を得た。しかし、南下政策を進めるロシアが、フランス・ドイツを誘った三国干渉により日本に遼東半島を清へ還付するように要求すると、三カ国の列強と対峙しえない日本はその要求に従って遼東半島を還付した。この結果、日本国内で「臥薪嘗胆」が叫ばれるなど日露関係は悪化した。

(総字数 400 字)

III

1 オーストリア＝ハンガリー帝国。

2 日露戦争に勝利した日本は、第2次日韓協約で大韓帝国の外交権を奪い、統監府を置いた。不当を訴えようと高宗がハグ密使事件を起こすと、日本は高宗を退位させ第3次日韓協約で内政権を掌握し、軍を解散させた。結果、義兵闘争が激化した。安重根が前統監伊藤博文を暗殺すると、翌年に日本は韓国併合を行った。韓国併合は日韓を対等な連合としたり、韓国の自治権を認めつつ包摂したりするものではなく、条約を強制して名実共に植民地化したものだった。委任統治は国際平和機構たる国際連盟から、国家としての自立が困難な地域の保護を列強が委託される方式で、ところにより将来の独立も掲げられた。実際には敗戦国の支配地を分割し植民地化するものだったが、第一次世界大戦後のパリ講和会議で、十四か条のもと各民族が帰属などを自ら決めるという民族自決が原則とされたことを背景に矛盾を避けるためこの方式がとられた。

(総字数 400 字)